

# 市長が行く

茂原市長 田 中 豊 彦

No.9



確かな手ごたえを感じながら

市長に就任してからまもなく1年が経とうとしています。

そこで今回は、この1年間に私が行つてきたことについていくつかここに書いてみるとしました。

行政において何が大事かということについての私の考えは、  
①安全安心、つまり人命を支える基礎的な環境がしっかりと  
していること ②その基盤の上に生活を豊かにするための、  
教育や福祉、多くの文化的な事業等があること ③そしてそれらを支えるためのしっかりとした財源が不可欠であると  
いうことであります。

こうした観点から、第一に取り組んだことが医療問題です。昨年の7月1日に、医師会の先生方の協力を得て、救急医療問題検討委員会を立ち上げ、この地域における救急医療についての問題点を出し、その中で緊急に対処すべきこと、つまり時間の二次待機の空白日解消を目指に取り組んでまいりました。

おかげさまで今年の5月1日から長生郡市においては夜

間の二次待機の空白日が0(ゼロ)になりました。

これは夜の8時から翌朝の6時まで救急車に運ばれて受け入れてくれる病院が、この長生地域にあるということです(小児科産科を除く)。今までに月に10日～14日受け入れてくれる病院がなかつたことを思うと一歩も二歩も前進したと思っています。このために忙しい時間を割いて熱心に会議に参加してくださった医師や関係者の皆さんとの熱い思いに頭が下がります。こうした立派な方たちが長生郡市にいることを皆さん誇りに思いましょう!

9月には茂原市のすべての小中学校を訪問しました。このコラムでも申しましたが、そこで感じたのはあまりにもひどい教育現場の実態でした。

そこで、企業誘致推進室を設け、茂原への進出を考えている企業へのアプローチを積極的に取り組んでいます。いくつかの企業から前向きな返事があり、大変心強く思います、一日も早い実現に向け頑張ります。

あつという間に過ぎた一年でしたが、これらのことをひとつずつ実行してこられたのも職員の協力と市民の皆さまの温かい励ましの言葉があればこそ思っています。今後も大胆に着実に取り組んでまいります。

善処していきたいと考えます。予算が増えたことを喜んでくださった先生が、教育の向上は任せくださいといった言葉が頼もしく響きました。大いに期待しています。

さて財政基盤の立て直しかからうと思つた矢先にリーマンショックがあり、わが茂原市の企業も大いにその影響を受け、これによつて市税が落ち込むことは必至です。

しかし、どのように厳しい状態に置かれても、財政の立て直しに着手していかなくては何事も始まりません。少しでも無駄を省くことに加えて新たな産業振興に向けて取り組んでいかなければ財政は厳しくなるばかりです。

そこで、企業誘致推進室を設け、茂原への進出を考えている企業へのアプローチを積極的に取り組んでいます。いくつかの企業から前向きな返事があり、大変心強く思います、一日も早い実現に向け頑張ります。

あつという間に過ぎた一年でしたが、これらのことをひとつずつ実行してこられたのも職員の協力と市民の皆さまの温かい励ましの言葉があればこそ思っています。今後も大胆に着実に取り組んでまいります。